

# ふだん使いの TEAMS (複式 ver)



弘前大学教育学部附属小学校 八嶋 孝幸

## 1 はじめに

校務を情報化し効率化していくためには、ICTを特別なものとせずふだん使いすることを日々継続していくことが大切である。

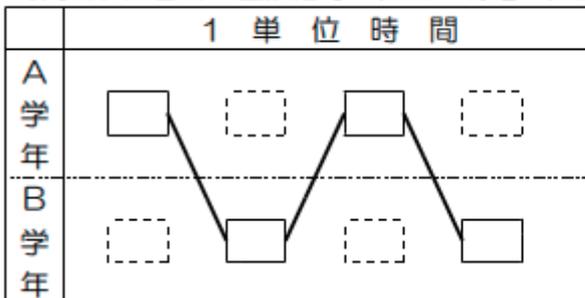
本稿では、複式学級の授業において、効率的に指導するための取組について紹介する。

## 2 複式における「わたり」と「ずらし」からICT活用を考える。

「わたり」とは

直接指導と間接指導の組合せにしたがって、一方の学年から他方の学年へ交互に移動して直接的な指導をすることである。この学年間を「わたり歩く」教師の動きを「わたり」と位置付けている。ただ教師が移動しても学習者の方には直接には関係なく、その時の課題に集中していることが大切である。

**例** 時間的、内容的に直接指導の機会が明確に位置付けられている型(計画的直接指導型)

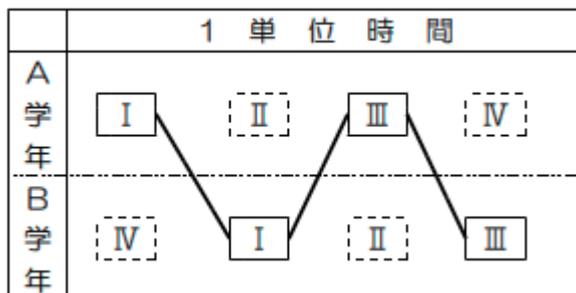


(例) はじめの10分で、A学年が算数の単元の導入をしていて、B学年が既習事項のミニテストをしているときのような場合。

「ずらし」とは

2つの学年を交互にわたり歩いて、直接指導と間接指導の内容を充実させ、学習活動を無理なく、効率的に行うようにするためには、どうしても指導段階を学年別に「ずらした組合せ」が必要になる。この組合せを「ずらし」という。

**例**



(例) A学年が直接指導で課題設定をしている間に、B学年は児童だけで前時の適用問題などの復習をする。その後、本時の課題設定をする形式である。  
※ 最も多く用いられる形式である。

これらの方法は複式学級の指導の中で磨かれてきたシームレスに指導する方法であり、そのよさもあるが、ICTの活用により洗練されたシームレスな指導ができるのではと考える。

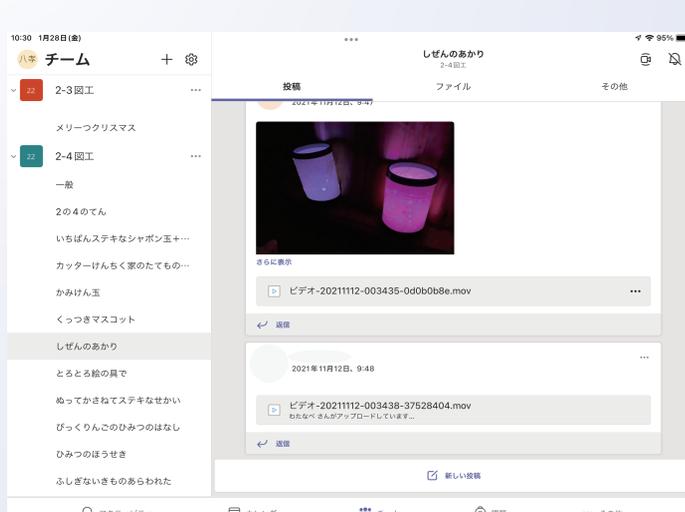
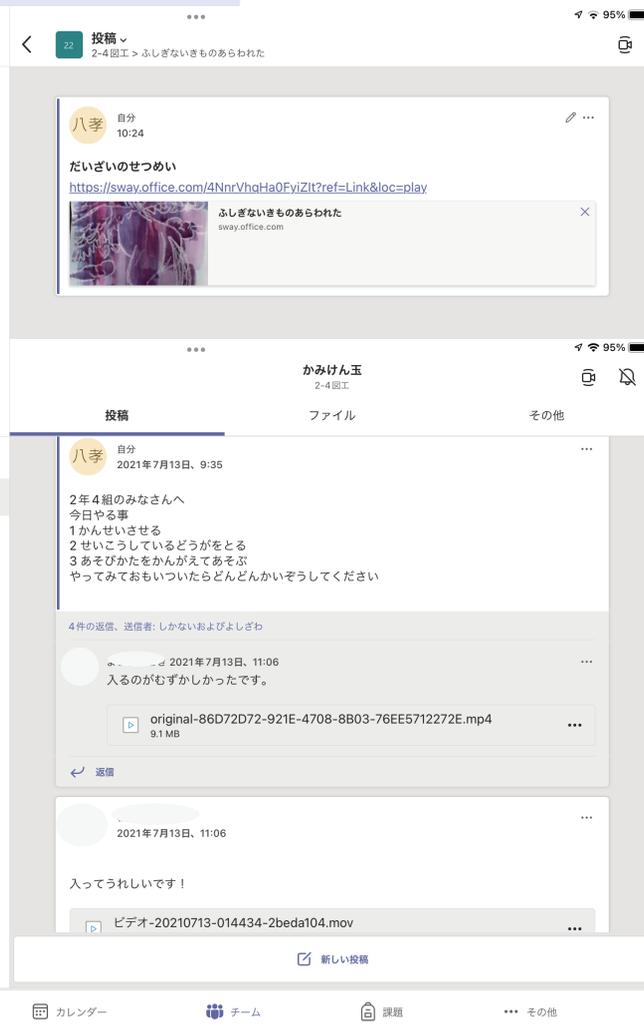
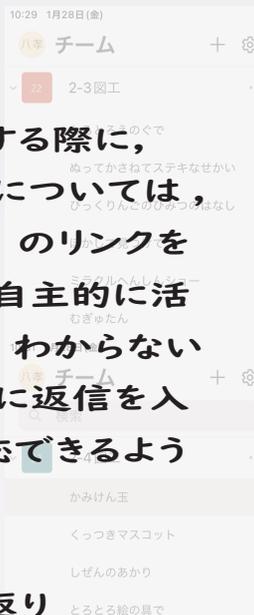
### 3 指導の実際

#### 3.1 課題の把握

「わたり」を使って指導する際に、  
間接指導を行っている学年については、  
「Teams」上に「Sway」のリンクを  
貼り、そのページを参考に自主的に活  
動に取り組めるようにする。わからない  
ことがある場合は、Teams に返信を入  
力するようにさせ、すぐ対応できるよ  
うにする。

#### 3.2 対話的な学びと振り返り

学習のプロセスや成果物を写真、動画  
等で記録し、随時アップする（感想等  
の振り返りも付け加える）。時系列で記  
録されていくので、各プロセスにおい  
てどのように学んでいったかを把握でき  
ようになる。また、他の児童と活動の様  
子を見合いながらできるため、考えを広  
げたり深めたりすることにも有用である。  
場合によっては、「Forms」のリンク  
を貼って振り返りを集約することもある。



### 4 終わりに

ICT を活用することによって指導が効率化し、「わたり」や「ずらし」などの方法のよさも生かしながら指導の充実に繋がっている。これらの実践は、複式学級の実践であるが、通常学級においても活用できる要素があると考えられる。教員にとっても負担なく、児童にとっても効果的であることを意図した ICT の活用法を今後も模索したい。